

## 当院内視鏡検査に及ぼした新型コロナウイルス感染症の影響

唐津赤十字病院

内視鏡室 ○丸尾 美紀、森岡 美和、坂本麻衣子  
野口 侑子

### 【はじめに】

内視鏡検査の目的は検診・一般診療に大別され、一般診療においても定期検査/スクリーニング・一般診療・緊急・治療等多様な目的で施行される。また、施行施設も急性期病院・一般クリニック・検診専門施設等様々である。2020年以降の新型コロナウイルス感染症パンデミックは内視鏡診療にも多大な影響を及ぼしているが、その影響の程度は検査施設や検査内容などにより異なるものと考えられる。

### 【目的】

新型コロナウイルス感染症が、地域中核病院である当院内視鏡検査に及ぼした影響を検討する。

### 【対象と方法】

2017年1月から2021年12月まで当院にて施行された全内視鏡検査について、内視鏡ファイリングシステムを用いて、上部消化管内視鏡・下部消化管内視鏡・胆膵内視鏡それぞれについて、全検査数・検査目的・内視鏡的腫瘍切除数・緊急治療数・休診日検査数を算出した。そして、それらを新型コロナパンデミック前の2017-2019年の3年間とパンデミック後の2020-2021年で比較検討した。

### 【結果】

上部および下部消化管内視鏡は経年的に増加傾向であったが、パンデミック後は減少に転じ、2019年比で2020年/2021年は上部：91.9%/89.9%、下部：83.9%/88.2%であった。目的別では、上下部とも検診精査や一般診療は減少したが、定期フォローの減少は認めなかった。胆膵内視鏡はパンデミック前後での検査数の変動は認めなかった。上部消化管の腺腫・癌の内視鏡治療件数はパンデミック前後での変化を認めなかった。大腸ポリープ切除数はパンデミック後も経年的に増加したが、治療方針の変化によるものと思われた。上下部消化管緊急内視鏡治療（止血術・異物除去・ステント挿入）はパンデミック後は2020年・2021年とも2019年比64.8%と減少した。休診日に施行した上下部消化管内視鏡検査も、パンデミック後は7割前後に減少した。

### 【考察】

新型コロナウイルス感染症パンデミック後は上下部消化管内視鏡検査数や緊急内視鏡数・緊急治療数の減少が認められ、パンデミックによる検診抑制・受診抑制が影響したと思われた。一方、消化管腫瘍に対する内視鏡治療数の減少はなく、がん診療への悪影響は認められなかった。また、胆膵内視鏡への影響も認めなかった。

### 【結語】

新型コロナウイルス感染症パンデミックが内視鏡診療に与えた影響は、その種別や内容により様々であった。

【連絡先：〒847-8588 佐賀県唐津市和多田2430 TEL：0952-72-5111】